

慶應 SDM 農都共生ラボ(アグリゼミ)の長野県小布施町視察

農林中央金庫寄付講座として活動している、慶應義塾大学大学院 SDM 研究科の農都共生ラボ(アグリゼミ)。毎年、農村視察研修を実施しているが、今年は、8/24～8/26、長野県小布施町への視察を行った。今夏、慶應 SDM・小布施ソーシャルデザインセンターが開設されたのを受け、その研究活動の一環として実施された。林美香子特任教授、保井俊之特別招聘教授をはじめ、学生、研究員など、総勢 13 名の参加があった。

小布施は、「栗と北斎と景観」により、地域活性化の先進的自治体として有名な町。今回は、これらの視点に加え、寺境内でのスポーツによる地域づくり、六次産業化などの新しい地域活性化の取り組みも視察した。また、農家民宿や農作業を通した町民のみなさんとの交流は、都会の学生たちにとり貴重な体験となった。

最終日には、「未来の小布施の農業」をテーマに、町民もまじえたワークショップを開催し、農業活性化策を寸劇の形で提案した。視察後、学生たちが報告書をまとめ、小布施町に提出したが、今後も小布施町をフィールドにした研究を継続していく予定である。







